

# 第1回高齢者のケアを支える人材のケア技術の充実に向けた研修会

## 「口から食べる」幸せを支援するために ～摂食・嚥下のメカニズムとケアの知識・技術を学ぼう～

【開催日時・会場】

平成29年7月6日（木） 10:00～15:30

西予市宇和文化会館 2F 中ホール  
〒797-0015 西予市卯之町3-444



### 【プログラム】

午前の部：講義・演習 I

「食べる楽しみいつまでも～口腔機能を維持するためにできること～」

講 師：伊方町町見歯科診療所 所長  
愛媛県歯科医師会地域保健委員長 宇都宮 久記 先生

午後の部：講義・演習 II

「食べる楽しみいつまでも～安全に食べるために必要な知識と技術～」

講 師：市立八幡浜総合病院  
摂食・嚥下障害看護認定看護師 清水 義貴 先生  
演習協力者：市立八幡浜総合病院  
リハビリテーション科 言語聴覚士 梅林 歩美 先生

### 【募集人員】

40名程度

（受講希望者が定員を上回った場合、参加者の調整を行うことがあります）

### 【研修対象者】

- ①西予市内の高齢者のケアに関わる介護職・看護職等
- ②南予地域の市町において人材育成事業に関わっている専門職（1市町1～2名）

### 【申込み方法】

所定の様式でkintoneかFAXで、または大学ホームページよりお申込みください

締 切：平成29年6月23日（金）

F A X：089-958-2177 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター 豊島 宛

HPアドレス：<http://www.epu.ac.jp/>（地域交流センター → 公開講座・専門職対象）

### 【参加費】

無料

右のQRコードで  
携帯電話からも  
申込みが可能  
です



【主催】 西予市・愛媛県立医療技術大学・愛媛県

【問い合わせ先】

公立大学法人愛媛県立医療技術大学 地域交流センター（沼田/豊島）

TEL:089-958-2111 FAX: 089-958-2177 Mail: [toshima-yumi@epu.ac.jp](mailto:toshima-yumi@epu.ac.jp)

※裏面に昨年度の研修会の受講者の方の意見・感想を掲載しております

# 平成28年度研修会受講者の声 「口から食べる」幸せを支援するために～口の機能を知ろう～

「口から食べる」幸せを実感できる支援を目指して、摂食嚥下機能についての基礎知識や科学的根拠に基づいた『健口体操』の実践について講義がありました。また実際に自分の唾液量・咀嚼回数・嚥下回数等を測定し、対象者の機能にあった介助の必要性を体感していただきました。



講義も演習もあり時間が短く感じられるほど、楽しく分かりやすく学ぶことが出来た  
【介護福祉士】

歯科衛生士の仕事の幅、多職種と連携できる力、介護分野に入っていける力の底上げが必要と感じた  
【歯科衛生士】

食べるということは命に直接繋がるため、食事介助をする際に、今以上に注意して実践して行きたい  
【看護助手】

義歯が合わない人に外して食事をしてもらうことはすごい間違いだったと気付かされた  
【介護職】

食べるために口の中がどう動いているのかを、実際に体験して知ることができた  
【介護支援専門員】

漠然と口腔ケアの大切さや意味は知っていたが、実験を通して相手の立場に立つよりよいケアを考えるというのはこういうことかなと思った  
【介護福祉士】

口腔機能が低下すると低栄養・誤嚥性肺炎につながる事が分かり、歯やケアの大切さが理解できた  
【介護支援専門員】

住民に向けた介護予防の話やプラン作成に活かしていきたいと思う  
【保健師】

唾液量や咀嚼回数の実験を通して、まず自分について知り、個人差も知ることが出来た  
【看護師】

摂食・嚥下の仕組みについて、誤嚥しにくい姿勢など、ためになる内容でとても参考になった  
【介護職】

きざみ食は飲み込みにくい形態と知り、職場の仲間に伝えていきたいと思う  
【介護職】

「ぱ・た・か・ら」の舌の運動の意味がよくわかった  
【介護支援専門員】

多職種の連携が大切といわれているが、色々な現場で働く方と意見交換できて良かった  
【介護福祉士】



食べることの大切さ、食べることの幸せを改めて感じることができた  
【看護助手】



舌の力が低下すると誤嚥や摂取量低下につながるため、口腔内トレーニングが必要なことが再認識できた  
【介護福祉士】